



はじめまして。諸口教室で個別指導を担当させていただいております。道家陽太です。
私も中学生の頃から諸口教室に通っていたので、教室の雰囲気やみなさんの頑張りをみると当時を思い出し懐かしい気持ちになります。
今日はこの場をお借りして、21年の人生を振り返ったときに皆さんにお伝えしたい2つのことについてお話ししたいと思います。
まず1つ目は、皆さんが良く疑問に思うであろう「勉強をするべき理由」についてです。
結論から言いますと、私は「将来の選択肢を増やすため」だと考えています。
これは中学生の時に父親から言われた言葉で、当時はあまり理解できなかったのですが、今となっては自分なりに解釈できたと思うのでお伝えしたいと思

ます。
中学生の頃は「勉強する理由」について考えることなく、諸口教室に通いながら楽しく勉強していました。
しかし、高校生になると勉強への意欲が下がり、「なぜ勉強をするのか」がわからなくなっていました。
そして高校2年生の秋、文系(国語や地歴公民)か理系(数学や物理など)を選択する際に、理系科目に対する理解度がありにも低く、文系を選ぶことしかできない状態でした。このとき、はじめて勉強することが「将来の選択肢を増やすため」であることを理解しました。
もちろん、選択肢を広げる方法は勉強に限った話ではなく、スポーツを極めるなど様々な方法があると思います。しかし私は、勉強をすることが最も幅広く可能性を広げられる手段であると考えています。また勉強以外でもいえることですが、目標に向かって努力した経験は、たとえ思うような結果にならなくても、必ず将来の自分を支えてくれます。このこと

を頭の片隅に入れながら、勉強や部活などに全力で取り組んでくれたらと思います。
そして2つ目は、「縁の大切さ」についてです。
これまで21年間でさまざまな出会いや縁を感じる出来事がありました。
このことから、一生に一度きりの出会いや瞬間を大切にするという意味の言葉である「一期一会」が好きになりました。
かつて生徒として通っていた諸口教室に、今度は講師として戻ってきてみなさんと出会えたことも、私にとっては素晴らしい「縁」の1つです。
人は1人で成長することはできません。今もこれからも、皆さんの周りにあるさまざまな「一期一会」の出会いへの感謝を忘れずに、一度きりの中学校生活を楽しんでほしいと思います。そして、塾では勉強に一点集中してほしいと思います。
私もこの諸口教室で、一人の先輩として、そして講師として、皆さんの歩みを全力でサポートさせていただきます。一緒に一歩ずつ進んでいきましょう！



富田のちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE

富田昌史(エニグマ教室)

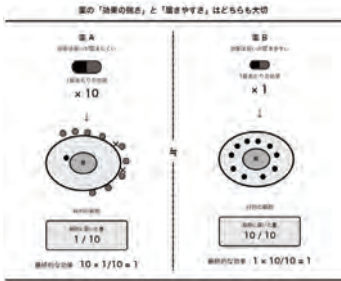
がん研究の最前線 ～薬学のおもしろいところ～

これからもしかすると昨年と同じように暑い夏になるかもしれません。みなさんはいかがお過ごしでしょうか。楽しい、そして充実した夏休みになってもらえたらなあと思っています。
今回はエニグマで教えてもらっている石田先生の研究をご紹介します。石田先生は、エニグマに生徒として通った後、講師として教えに来てくれています。「京大数学・京大英語・化学・生物・国語」と、超オールマイティーな先生です。また研究者として、「がん細胞」の研究をされていて、来年からは理学部の博士前期課程に進まれる予定です。
そんな石田先生に、今回はご専門の「細胞にいたる薬のルート」について、お話しいただきます。

<薬のお話>
はじめまして。エニグマ講師の石田です。みなさんはよく効く薬といえばどういったものを想像しますか?「効果が強いほど、よい薬!!」と想ったりしませんか?実は、「効果が強い薬ほど良い薬」とは限りません。
<効果を発揮する条件>
①「効果が強い」
②「薬が届いてほしい場所に届くかどうか」
薬は、この①と②があって初めて効果を発揮します。世界最高の薬でも、目的の細胞に届かなければ、効果はでないのです。つまり、薬が実際にどのくらいよく目的の場所に届くかという観点も重要になってきます。



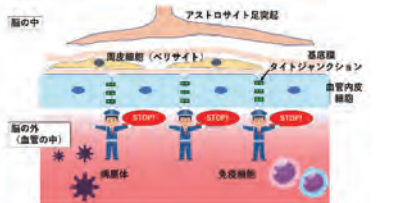
▲石田先生の生物授業風景。熱入ってます！



▲「薬効が強ければいい薬というわけじゃない?」

たとえば、上の例のように薬A、Bがあり、薬Aの効果はBの10倍だったとしましょう。一見Aの方が良い薬のような気がしますよね。ですが、AはBよりも目的の細胞内に入りにくく、その量がBの10分の1だったとします。するとこの二つの薬からは同じような効果しか得られないことになってしまいます。せっかく効き目の良い薬を作っても目的の細胞に届かなければ、期待した効果が得られないのです。
<薬が届いた先の環境が大事!? ～免疫細胞～>
もう一つ、薬の効果を複雑にする要素として免疫細胞の存在があります。がん細胞を狙い撃ちにするよう設計された薬であっても、周囲の免疫細胞がその動きを変えてしまうことがあるのです。免疫細胞はもともと体を守るために存在しており、薬と協力してがん細胞への攻撃を強めてくれる場合があります。一方で、がん組織の周囲では逆にがん細胞を守

るように働いてしまう免疫細胞もいることがわかっています。同じ免疫細胞でも、状況によって薬の効果を高めることも、打ち消すこともあるのです。「どう届けるか」だけでなく、「届いた先の環境」も薬の効果を大きく左右します。
<脳は要塞! どうやって薬を届けたい?>
また、臓器によっても薬の届きやすさに差があります。たとえば、脳はもっとも薬が届きにくいことで知られています。脳腫瘍など、「脳の病気が治りにくい」という印象はありませんか?これは私たちの体が異物から脳を守る仕組みが皮肉にも影響しています。
通常の血管には細胞間に隙間があり、そこを物質が移動しています。しかし、脳の血管では細胞同士がとて強く、そして隙間なく結合していて隙間がありません。このバリアのことを血液脳関門(BBB)と言います。それに加えて、組織の中の異物を血管に排出するしくみが多く存在します。隙間がないため他の組織に比べて細菌や有毒な物質が入りにくく、入ったとしても排出されるようになっているのですね!
薬も体にとっては異物なので、ほかの異物と同じように組織の中に入りにくいのです。
これを改善するために超音波を使って細胞の隙間を一時的に広げる技術や、簡単に薬が排出されないように、ナノカプセルに包むという方法が研究されています。



▲血液脳関門(BBB)のイメージ 出典:日本脳科学関連学会連合

このように薬を目的の場所へ届けることは、薬の効果と同じくらい重要な課題なのです。それを改善しようと理学・工学・医学など多くの分野が連携して研究が進められています。こういった研究に少しでも興味を持っていたら幸いです。



▲大学にて

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター



【本 部】
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008
【今福教室】
城東区今福西 2-9-20
TEL.06-6934-4662
【諸口教室】
鶴見区諸口 4-14-9-1F
TEL.06-6912-3984
【今津教室】
鶴見区今津南 1-6-2-1F
TEL.06-6167-9722
【高殿教室】
城東区成育 5-22-10-2F
TEL.06-6786-1008
【エニグマ】
中央区谷町 9-4-5-3F
TEL.06-6777-1563
【カイコベ】
城東区今福西 3-4-9
TEL.06-6180-6565
【今福第2教室】
城東区今福西 2-16-8
TEL.06-6931-2000
【関目教室】
城東区関目 4-6-17-2F・3F
TEL.06-6934-8117
【古市教室】
城東区古市 3-21-8
TEL.06-6931-0467
【カイチ予備校】
城東区今福西 1-10-17
TEL.06-6935-2220
【万緑会】
天王寺区上本町 6-9-10-3F
TEL.06-6772-5011



高木 秀章(塾長)

いよいよ夏期講習へ—— “勝負の夏”をどう過ごすか

今年度の夏期合宿は、募集開始からわずか2日で定員100名を大きく超え、急遽ホテルの部屋数を拡大。それでも144名もの申し込みがありました。残念ながらキャンセル待ちの生徒が出てしまいました。本当に申し訳ないです。でも、この数字が示すのは、今年の中3生たちの“本気度”だと思います。

私も今福教室に入っていますが、生徒たちの姿勢には本当に驚かされます。定期テスト前は質問も多く、作問依頼も作りきれないほど多い。この子達のために頑張らないと、と逆に思われる。そんな学年です。そんな状態で迎える夏。だからこそ、ここからの話をしっかりと心に刻んでほしいのです。
来月からは中学3年生の三者懇談会が始まります。先日この三者懇談に際して、どの高校を目標校として提示するのを担当者が確認する打ち合わせがありました。この時期は、まだ志望校までもうひと頑張り、偏差値が3～5足りないという生徒が大半です。これは、別段珍しいことではなく、それを埋めるために受験勉強をします。

その中で特に知っておいて欲しいのが夏期講習の重要性です。ここを理解しているかどうかで、受験の成否が大きく変わってしまいます。

右に示しているのが受験のスケジュールですが、私立高校は12月の学校での三者懇談会で決定されます。この際、各学校の受験の可否の基準になるのは10月・11月に実施される各学校の実力テストです。中学校の先生方は、この実力テストの点数を各私立高校から提示されている基準に照らし合わせて受験校を考えられます。

カイチも実は私立の先生達との相談を実施しています。その際、主に利用するのは10月・11月の五ツ木模試の結果です。これも同じように各私立高校が提示される偏差値を基準にして、受験の可否を判断します。

ここで大切なことは、私立受験校を決定する重要なテストが10月・11月にあるということです。つまり受験の可否は2月の私立入試ですが、可否の前に受験できるかを決めるテストは10月・11月に実施されます。

公立志願の生徒であっても、併願校の選択は非常に重要ですから、併願・専願に関わらず、受験校はおおむね10月・11月の実力テストと五ツ木模試で決まると言っても過言ではありません。

つまり、受験勉強、特に中1・中2・中3の1学期の単元内容は9月末には学習を

終了しておく必要があります。

そう考えると、時間がたっぷりある7月・8月の重要性が見えてきます。9月以降は塾では毎週土曜日の受験対策講座や文理学科講座が始まり、単元内容を横断した複合問題の演習を実施し、より実践的な受験問題で得点を取る指導に移っていきます。

つまり夏で勉強をやり切れない生徒は、9月以降の実践演習についていくのが苦しくなり、10月・11月のテストでも結果を出しづらくなり、入試直前の過去問演習でも点数が伸び悩みます。

ここで問題になるのは、クラブが夏期講習期間も続く人達です。この人達は、他の受験生に比べて大きく出遅れてしまいます。強く言っておきたいことは、授業に間に合わなくても、とにかく隙間時間で塾に来て、「夏期講習のやり切り内容」をこなすことです。授業時間が多く、補習で追いつけることは不可能ですが、先生達も質疑で対応します。必ず、「講習のやり切り内容」をこなしてください。それができれば、遅れは取りませんし、そうやって先輩たちは第一志望に合格しています。

クラブの影響を受けない塾生たちは、夏期講習期間中は塾での学習時間を含めて、朝3時間、昼3時間、夜3時間の1日9時間の勉強を意識してください。9時間でできれば、日曜日は休憩です。1週間で3時間足りなければ日曜日の朝で3時間埋めるという形にしてください。お盆休みは、1日4～5時間の学習でもOKです。

講習会中の学習内容は「カイチの講習内容と学校の宿題」これをやり切るだけでOKです。そうやって、みんなで、夏期講習最終日に実施される進研模試で偏差値3～5アップを目指します。みんなならできます。

「頑張っても、結果が出なかったら?」

そんな心配は無用です。それだけやっていれば、必ず9月以降のテストで差がついてきます。夏で培った、単元学習の反復が必ず9月以降の実践演習の理解を支えて、頑張っていない人との差を生みます。努力は絶対に嘘をつきません。

現場で指導している実感ですが、本当にカイチ生は素晴らしい。
私は最近の子供達は、全体が意識が高く頑張りやさんで、素直だと(これ大学生の非常勤の先生方を含めて)思っていました。が、色々な人の話を聞いていると、カイチの皆さんは特に素晴らしいと思います。

夏、キツイかもしれないけど、先生達もみんなと精一杯頑張ります。中3の夏は、人生で1度だけ。悔いが残らない、頑張る自分を誇らしく思う。そんな充実した夏にしましょう。

カイチからの お知らせ

- 学習部は7月21日(火)～8月25日(火)は夏期講習期間となり、通常授業と指導曜日・時間が異なります。詳しくは夏期講習のお知らせに記載しております。
- 7月18日(土)・21日(火)・22日(水)は小・中学部の診断テスト・実力診断テストを実施します。
- 7月8日(水)・16日(木)は中学部(集団指導)休講日、7月29日(水)・8月6日(木)は全クラス休講日、8月7日(金)はキッズクラス(珠算・パスカルキッズ・トーキングキッズ)が休講日です。
- 8月9日(日)～11日(火)は中学3年生の夏期合宿です。
- 8月10日(月)～8月15日(土)は全コース休講日とさせていただきます。

Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

カイクベ蒲生、元気いっぱい頑張ってます！

井上陽平（カイクベ蒲生四丁目教室）

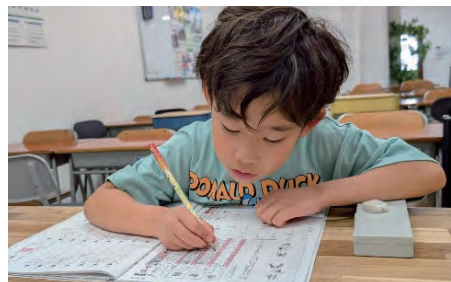
強い日差しと湿気で汗ばむ日々が続いています。私井上は30代前半のおっさんですが、日焼け対策に全力です。しかし、外を見ると、汗でびしょびしょになりながらも元気に遊びまわる子供たちの姿を目にします。カイクベ蒲生の生徒も、元気いっぱい。今回は、カイクベ蒲生四丁目教室の今の姿を、みなさんにご紹介いたします！

①カイクベはどんどん成長しています！

私たちカイクベは、開智総合学院の個別指導専門教室として、2024年にオープンしました。開校当初は生徒も少なく、先生もごくこなかったため、イマイチ活気に欠けていました。そんなカイクベですが、今年3年目を迎え、昨年開校したカイクベ諸口教室ともに、多くの生徒さんに通ってもらっています。教室内は活気があり、勉強を頑張ろうという前向きな空気にもちています。勉強をがんばるとき、仕事をするときなど、一生懸命何かに取り組むときは、いつだって一人です。でも、同じ目的をもっている仲間がいる。同じように頑張ろうとする仲間がいる。一人だけど、独りじゃない。この理念を大切にしながら、日々子どもたちに全力で接しています。

②小学個別クラス

カイクベには、カイチ唯一の小学個別クラスがあります。おもに学校の算数の予習・復習をしている生徒が多いですが、国語・理科・英検・中学受験の勉強など、さまざまな学習をしています。遊びたい盛りの小学生ですが、勉強にも非常に前向きです。毎週の授業や宿題、小テストに対して、積極的に取り組んでくれています。



▲小学2年生から頑張っています！

我々としては、カイクベでの勉強を通して、学校のテストがよくなり、学期末の成績が向上することを目標としています。先日、国語の授業を取っている生徒が、「学校で初めて国語100点を取れた！」と教えてくれました。本人の努力が実った瞬間に立ち会えて、この上なく嬉しい気持ちになりました。生徒の頑張りに応えられるよう、私自身も頑張っていきます！

③中学・高校個別クラス

今、この記事を書いているのは、学校の1学期中間テストが終わり、期末テスト直前の時期です。中学生・高校生は勉強に対するモチベーションが、年々高まっているように感じます。テストの3週間前からは「スケジュールシート」で目標点とやることリストを確認し、2週間前からは「3時間自習」、テスト直前の土曜日には「9時間自習」と、テスト対策のイベントはどの生徒もしっかりやり通しています。その上で、テスト1週間前の部活動がオフになる期間などでは、17時ごろから生徒が自習に来て、問題を解いています。質問をする生徒もどんどん増えてきました。結果として、中間テストではほぼ全生徒が前回のテストから点数を上げ、中には数学で53点アップした生徒もいました。カイクベで教えている先生も、テスト対策の指導が板についてきており、熱気を生む中心的な役割を担ってくれています。



▲9時間自習のお弁当は大好評！

また、定期テスト対策だけでなく、受験対策にも勢いがあります。今年から、「受験勉強進捗チェック表」を導入し、早期からの勉強時間確保に努めています。受験生の勉強量は、カイチの集団生と比べても引けをとらないほど。受験対策のテキストと各教科の小テストを通して、

秋の実力テスト・五ツ木テスト、冬の私立・公立入試に向けて、着実に力をつけています。



▲中間テスト、頑張りました！

④フリースクール「昼コベ」、オープン！

今年の3月から、カイチ初のフリースクールである「昼コベ」が開校しました。フリースクールとは、何らかの理由で学校に行けない・行かない子どもたちが、日中、学校の代わりに過ごすことができる場所です。教育に対する価値観の多様化の流れもあり、学校に行けない子どもの数は、年々増加しています。子どもにとって、ある種逆境のような状況にあっても、学ぶのを止めない。自分の進路を諦めないために、学びを継続できる場として、「昼コベ」をスタートしました。まだまだ駆け出しで生徒もごく少数ですが、通ってよかったと思ってもらえる関わり方ができるよう、頑張っています！



▲居心地のいい空間になっています！

⑤おわりに

この記事を書くにあたって、過去の自分の記事や、生徒数・成績データを見返しました。振り返ると、あの時はあんなことで悩んでいたな、こんな課題があったな、と苦労の連続でした。それでも、課題を一つ一つ乗り越え、素敵なお生徒に恵まれ、活気ある教室になってきたのは、カイクベを支えてくれている多くの人のおかげです。しんどかったけど、やってきて良かった。たくさんの人に助けもらった。その想いを忘れず、カイクベをいっそう素敵な教室にしていきます。

Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

「ライブ授業だからできること」を自身の数学の授業を通して語ります

福井幸司（カイチ予備校蒲生校）

私は映画館で映画を見る場合、前日にしっかり睡眠をとってコンディションを整えておきます。寝てしまったら大変ですからね。見逃し、聞き逃しを取り返せないですから集中力も必要です。DVDで見るなら都合の良いタイミングでスタートでき、シーンの見返しもできることを考えると、映画館までわざわざ足を運んで、上演時間に合わせて、なのに見返しができないのは不便ですね。

対面のライブ授業と映像授業の関係に似ているなぁと感じています。

カイチ予備校で授業をするようになり、経験を重ねていくと「授業の存在意義」を考えざるをえません。カイチ予備校は集団指導も個別指導も対面の「ライブ授業」という指導形態をメインにしています。映像授業の予備校や授業をしない自習を支援する指導形態の予備校も存在している中、ライブ授業の予備校を選んでもらうためには「ライブ授業だからできる」ことを示さなければならぬと考えています。

ライブ授業の欠点として挙げられているのは、①タイムリーさに欠ける
②参考書で自習した方が時間を効率的に使える
③自分の都合に合わせられる授業動画の方が便利である、などがあるようです。「時間対効果」いわゆる「タイパ」が良くないと考えられているようです。

ここから自身の数学の授業で心掛けている点を語り、上記のような欠点とされている要素を補って余りある「ライブ授業のメリット」を説明したいと思います。

参考書には「解法決定後」の正解の解説が書かれています。映像授業も「一方通行」であるため同様の説明になると思います。

ライブ授業が価値を見出すためには「解法決定前」の解法を絞り込んでいく思考の過程を見せることが重要だと考えています。しかもその思考の開始点を「目の前の生徒の発想」から始めることができれば、ライブ授業が負けるこ

とはありません。発問から生徒の思考の出発点を探り、そこから展開できる解法確定までの思考の流れを経験させることができる授業ならば、参考書学習や授業動画からでは得られないメリットがあります。

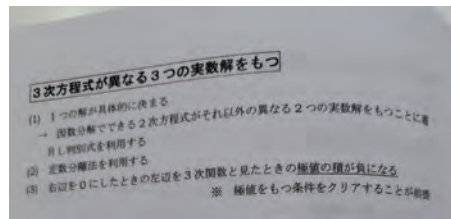
いきなり頂上へ連れていき絶景を見せるのと、一緒に頂上まで登って絶景を見せるのでは、違った体験になるでしょう。登り方を経験することを重視したいのです。卒業生で「授業中に自分以外の生徒の視点や思考を知ることができるのが良かった」と合格体験記に書いている生徒もいました。

では「登り方」を身に付けさせるために何をすれば良いでしょうか。

それは「正解ではない解法も言い続けること」に意味があると考えます。

例えばXというキーワードに対して、考えなければならぬ解法の候補がA、B、Cの3つあるとしましょう。私の授業ではXが出るたびに必ず3つとも挙げます。明らかにAと思える問題で、どう解くのかを発問した相手の生徒がAを選択しても「他に考えられる候補は？」と確認します。それは9割以上がAで解くことになるXがキーワードの問題に対し、常にBもCも意識しておかないといつの間にか「XのときはA」が常識になり、レアなケースに遭遇したときにBやCが候補にすら挙がらなくなるからです。

こんな「タイパの悪いこと」を「ライブ授業のメリット」に変えられると信じています。



▲高3の授業で使用する「方略集」にはキーワードに対して想定すべき解法の候補をまとめています。これを授業を重ねて生徒たちとの共通認識としていきます。

さて、私が予備校で高1生の授業をしていて気付いた「高校の授業スピードについていける生徒に共通する1つの特徴」を紹介したいと思います。

それは「説明が終わった後すぐに演習に入れる」ことです。

授業の最初に新出事項の説明をします。その後、解いてもらう問題を指示しますが、ここでの行動が2つに分かれるのです。1つはノートを見返すグループ。もう1つはすぐに問題を解き始められるグループ。この差を生み出しているものは何でしょうか？

それは「説明を聞いている時の集中力の違い」だと考えます。受け身で聞いているのか、それとも能動的に「分かってきている」のか。「説明が終わったら即問題を解いてやろう」という気持ちになっていることが必要なのです。

これは中学生のうちに意識して取り入れてほしいと思います。中学生のみなさんは今まで以上に集中力を上げる訓練をしてください。

「整ったらスタート」ではなく「整えてスタート」です。他人に決められた開始時に自分の集中力を高めることができれば、制限時間のある勝負の場では力を十分に発揮できないのです。自分の都合で開始出来て、一時停止できるのは便利で学習効率上がるかもしれませんが、あまり「タイパ」を重視しすぎると勝負の場面で脆くなるのではないかと考えます。

説明を聞いた後すぐに演習に入れる力がある者は、決められたスタートラインに合わせる力を持っているということです。その訓練は「タイパの悪い」ライブ授業で積むことができるのです。